

平成 28 年度第 1 回青森市子ども会議開催概要

- 1 日時 平成 28 年 5 月 7 日（土） 10 時 00 分～12 時 00 分
- 2 場所 青森市総合福祉センター2 階 大集会室
- 3 出席者 平成 28 年度青森市子ども会議委員 21 名（欠席者 11 名）
平成 28 年度青森市子どもサポーター3 名（欠席者 1 名）
青森市健康福祉審議会児童福祉専門分科会委員 1 名
市長、事務局 6 名
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 市長あいさつ
 - 3 子ども会議委員、子どもサポーター、事務局職員自己紹介
 - 4 アイスブレイクタイム
 - 5 今年度の活動内容説明
 - 6 閉会

5 開催概要

平成 28 年度の子どもの会議がいよいよ始まりました。今年度の子どもの会議には 32 名（小学生 7 名、中学生 11 名、高校生 14 名）の児童生徒が参加し、これから一年間子ども会議委員として青森市のまちづくりなどについての様々な活動を行う予定です。また、子どもたちの活動のサポート役となる子どもサポーターとして 4 名の社会人・大学生の方々が参加します。

第 1 回会議は市長も参加し、一年間一緒に活動していく子ども会議委員、子どもサポーター、事務局職員の自己紹介や交流を深めてもらうためのアイスブレイクタイムを設けました。ケーブルテレビや新聞社の取材の方々も会場に来ていました。

市長あいさつ

おはようございます。今年も子どもの会議がスタートしました。今年度は 32 名が参加してくれました。メンバー全員が元気に仲良く活動をしていただければと思います。また、4 名のサポーターの皆さん、そして児童福祉専門分科会の皆さんも一緒に活動をしていただきます。

平成 24 年 12 月に子どもの権利条例ができ、その条例に基づいて子どもの会議ができましたが、その前から子どもたちによって子ども宣言等が作られ、子どもの権利条例の素案も作られました。子どもたちが作った条例としては子どもの権利条例が青森県で初めてです。これからいろいろな活動の説明があるかと思いますが、その活動もまた、青森県で最も素晴らしい活動をしてきたし、これからもまたしていくだろうと思います。

子どもがしあわせになることが、すべての人にとってしあわせな優しいまちに繋がると思っていますので、皆さんの活動が青森市のまちづくりの原動力になってくれればと思っています。新しく参加の方も継続の方もいらっしゃいますが、どうぞ同じような気持ちを持って頑張ってくださいと思います。1 年間よろしくお願ひします。



続いて、初顔合わせとなる子どもたちの顔と名前を覚えてもらうため、自己紹介と子ども会議の抱負などを話しました。

子ども会議委員からの抱負など

- ・3年間ずっと「まちづくり」というテーマで、子どもが暮らしやすいまちはどうやって作ってあげばいいのかなということをやってきました。受験生ですが、できるだけ出席してみんなと仲良くやっていきたいなと思っています。
- ・去年は予定があってあまり来られなかったのですが、ねぶたでの普及啓発が楽しかったので、今年にはできるだけ参加したいと思います。
- ・中学2年のときに子ども会議に参加していて、そのときは交流グループで外国の人たちと交流し、子どもの権利などについて考える活動をしていました。私はいま高校の外国語科に通っているのですが、外国の子どもたちの権利について考える機会が結構多く、もう一度子ども会議に参加して自分の考えをもっと主張してみたいと思っています。
- ・今年も去年に引き続き子どもたちの健康と食の関係について、青森が短命県と言われ不健康なイメージがあるので、子どものうちから食を通して健康を作っていくにはどうしたらいいか調べたいと思っています。
- ・新しく参加したので、皆さんとの交流を通して自分の考えを深めていけたらと思います。
- ・初めてでまだ何もわかりませんが、皆さんとの交流を深めてもっといい青森市にしていけるように頑張っていきます。
- ・去年はイベントだけではなく、ねぶた祭りに参加したり川崎市に出張したりして、すごく貴重な経験をたくさんしたので、その知識や経験をフル活用して活動していきたいと思っています。
- ・去年の子ども会議のイベントでの発表を見て参加してみようと思いました。
- ・今年はグループ内だけでなく他のグループの人とも関わりながら楽しく活動していけたらいいなと思います。
- ・子ども会議に参加するのは初めてですが、どんどん会議が進むよう意見を言っていきたいと思っています。
- ・外国との交流をしてみたいです。
- ・青森市にたくさんの外国人客が観光に来てくれればいいなと思います。
- ・私は地域活性化などに興味があったので、今年から新規で参加しました。



子どもサポーターからの抱負など

- ・子ども会議が子ども委員会だった時代から数えると、関わり始めて10年近くになります。子どもサポーターとして活動を支えていければと思います。気軽に話しかけてもらえればと思います。
- ・今年の皆さんにはできるだけ自由に行動してもらえればいいと思います。サポーターとしてできるだけサポートしていきたいと思っているので、よろしくお願いします。
- ・教育実習などでなかなか来られないかもしれませんが、陰ながら皆さんの活動をサポートしていきたいらと思います。



児童福祉専門分科会委員からのごあいさつ

- ・おはようございます。私は子どもの権利条例を子ども会議の皆さんと一緒に作りました。たぶん青森市の子ども会議が東北では一番活発な活動をしているんじゃないのかなと思います。2000年代から青森市の子どもの権利に関するいろいろな事業に関わって来ましたので、サポーターの皆さんが小学生・中学生のころからよく知っています。皆さんが中学生から高校生へ、高校生から大学生、社会人へと成長していく姿をずっと見守っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

自己紹介が終わり、市長は次のご用事のため、子ども会議委員全員と握手を交わして会場を後にしました。

後半は、お互いの緊張をほぐし交流を深めるために、事務局職員や児童福祉専門分科会の委員の方を含めた全員で、子どもサポーターの司会進行によるアイスブレイクゲームを行いました。

まず、声を出さずに身振りや手振りのみで自分の誕生日を相手に伝え、誕生日の早い順に正しく並ぶ「バースデーライン」というゲームを行いました。誕生日順に並び終え、答え合わせをすると同じ誕生日の人がいることが判明するなどして、会場は盛り上がっていました。

続いて、5つのグループに分かれた後、グループで協力し、紙だけを使ってどれだけ高く積み上げられるかを競うゲームを行いました。各グループで作り方を話し合い、役割を決めて作業していました。紙を細長くして積み上げるグループや四角の筒状に折って積み重ねていくグループがありました。子どもたちは初めて行うこのゲームをとっても楽しんでおり、ゲームが終了したころにはすっかり打ち解けた様子でした。



最後に、今年度の子ども会議の活動内容について事務局から説明があり、今回の子ども会議は終了しました。

次回の会議では、「身の回りで興味があること」についての活動テーマなどの話し合いを行う予定です。